

2 0 0 5 年 7 月 8 日

株式会社 富士キメラ総研
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5841 FAX.03-3661-7696
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-3664-5697

包装資材（パッケージングマテリアル）4分野52品目の市場調査を実施

- P P フィラー容器は2008年に750億円規模へ（対04年比 124%） -

マーケティング&コンサルティングの(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 表 良吉 03-3664-5841)は、品質保持性、加工適性、利便性、美観性などに加え、コスト性や、環境対応・安全性も強く求められている包装資材の市場について調査を行った。その結果を調査報告書「2005パッケージングマテリアルの現状と将来展望」にまとめた。

< 調査結果の概要 >

1. 包装資材（パッケージングマテリアル）全体市場

分野	2004年	2008年予測	08/04
個包装（ボトル/飲料容器、食品容器、他個包装）	1兆5,979億円	1兆6,540億円	104%
物流・重包装	1兆1,158億円	1兆1,452億円	103%
軟包装フィルム	5,230億円	5,708億円	109%
その他関連資材	4,111億円	4,554億円	111%
合計（52品目）	3兆6,478億円	3兆8,254億円	105%

物流・重包装分野、個包装分野に含まれるボトル/飲料容器分野は、2003年までは減少推移してきた。前者は電子機器や電子部品など弱電分野での物流需要の回復、材料価格高騰に伴う包材の価格改定により、後者は猛暑の影響により、2003年から2004年にかけて回復している。

軟包装フィルム、食品容器、その他関連資材は、各分野とも横ばいまたは微増傾向で推移している。また、規模は小さいものの、その他個包装分野は長いスパンで見ると上昇傾向にある。

2. 分野別分析

物流・重包装（13品目）

需要の75%を段ボールで占めており、段ボールの動向が市場を左右している。段ボール需要は微減傾向で推移しているがステンレスドラム缶、プラスチックパレット、プラスチックドラム缶、プラスチック段ボールは高い伸びを示している。いずれも従来品（木製パレットなど）との代替により需要を確立している。

ボトル・飲料容器（6品目）（個包装分野）

2004年 9,976億円 2008年予測 9,917億円（対04年比 99%）

最大規模を有するのが飲料缶市場である。PETボトル市場がこれに続いている。PETボトルは小型PETボトルを中心に好調に推移している。反面、小型PETボトルへシフトしていることによりマイナス傾向を示している。特にスチール缶はこの傾向が顕著に現れており、缶コーヒー以外はPETボトルに移行している。現在、PETボトルのハイバリア化が進展しており、多層化、コーティングなど各社各様の方式でバリア機能を付与している。設備導入が進み、ハイバリア性を活かした新規用途の創出が見込まれ、新たな需要獲得が期待されている。また注ぎ易くするよう、口径の工夫もみられる。

食品容器（9品目）（個包装分野）

2004年 4,710億円 2008年予測 5,239億円（対04年比 111%）

プラスチック系食品容器は、食肉や鮮魚などの食品トレーやカップめん容器、電子レンジ対応弁当容器、ゼリーやサラダ容器、鶏卵パックなどの透明容器・蓋材、冷凍食品容器、耐熱容器など数多い。その利便性や商品陳列の美観性、衛生面などの要因からパッケージングマテリアルの代表的分野としての位置を確立している。CVSやスーパーマーケットなどの普及により市場に広く浸透している。

食品トレーとして広く利用されるPSP(ポリスチレンペーパー)は、重量ベースでの市場は縮小する傾向にあるが、枚数ベースでは増加している。これは、容器包装リサイクル法負担金や運送コスト削減、樹脂使用量の少量化などの目的から、発泡倍率を上げて軽量化・薄肉化していることが要因である。

今後市場拡大が期待される発泡PP(ポリプロピレン)容器、発泡PET容器、PPフィルター容器は、いずれも耐熱性を持ち、電子レンジでの調理が可能である点で共通している。しかし、軽量性、緩衝性、断熱性、耐油性、強度、深絞り成形など成形加工性などのそれぞれの特色があり、各々の対象分野が異なるため競合はしていない。

軟包装フィルム(8品目)

軟包装フィルム分野では、成長性の高い包装用フィルム、機能性フィルム8品目を取り上げている。中でも著しい成長を示しているのは、「バリアフィルム」中のアクリル酸系樹脂コートフィルム、透明蒸着フィルム、EVOH共押出OPPである。軟包装フィルムの高機能化のポイントとしては、「鮮度保持フィルム」や「バリアフィルム」にみられるような、食の安全性を更に向上させる機能、「方向性フィルム」、「イージーピールフィルム」など消費者の利便性をより高める機能などが挙げられ、それらの研究開発が進められている。

3.注目市場動向

PPフィルター容器

2004市場 603億円 2008年予測 750億円(対04年比 124%)

電子レンジに対応可能なことから年率7%程度の高成長で推移している。断熱性や軽量性で優れる発泡PP容器の登場により伸び率は鈍化すると思われたが、PPシートの欠点であったコシの問題を解消したフィルター配合シートが弁当向けを中心に伸長したことが要因となっている。

耐熱性が要求されるレンジ食品用途を中心に、今後も規模を拡大させていくとみられる。PS樹脂素材容器と比較すると耐熱性・耐油性に優れ、しかもフィルター配合PP容器は剛性も優れる。

需要先であるスーパーやCVS、外食チェーンの店舗数は増加を続けており、更に1世帯あたりの電子レンジ保有率も95%を超えていることから、今後も増加していくと見られる。

プラスチックパレット

2004年 305億円 2008年予測 403億円(対04年比 132%)

主流であった、木製パレットが付着害虫の問題から各国で規制され、プラスチックパレットへの代替が続いている。

プラスチックパレットは木製パレットと比べて耐久性が良く、長い目で見ればトータルコストは安く済むというメリットもある。また、木の腐敗・腐食・釘などによる積荷への傷、汚れを防止できるなど、防傷性や衛生性も兼ね備える。以前はビールメーカー向けの販売が多かったが、衛生面の必要性の高まりから食品メーカーなどにも採用が拡大している。

気泡緩衝材

2004年 111億円 2008年予測 139億円(対04年比 125%)

2001年頃はIT不況により用途の需要が縮小し、市場が落ち込んだが、デジタル家電需要の好調な動きにより再び増加基調に転じている。またインターネット/モバイル通販が大きく伸長している事で、配送時に使用するケースが増加している。仮想ショッピングモールに出店する店舗は中小企業あるいは個人商店の場合も多く、手軽に誰でも簡単に梱包でき、緩衝性のある当該品の利用が増えていると見られる。パソコンの普及、ブロードバンドの普及及びインターネット人口の増加、セキュリティの向上、第3世代携帯の本格始動及びモバイル通販の浸透などを背景に、今後も需要拡大が期待される。

< 調査対象 >

対象	品目
個包装（ボトル・飲料容器）	PET ボトル、PE・PP ブローボトル、PEN ボトル・容器、飲料缶（アルミ缶、スチール缶）、ガラスびん、飲料カートン
個包装（食品容器）	PSP 食品容器、A-PET 食品容器、PP フィラー容器、PP 発泡食品容器、HIPS 食品容器、OPS 食品容器、発泡 PET 容器、EPS カップ、断熱紙カップ容器
個包装（その他個包装）	レトルトパウチ、スタンディングパウチ、スパウトパウチ、ラミネートチューブ、マルチバック、アルミ箔
軟包装フィルム	高機能鮮度保持フィルム、防曇フィルム（OPP）、ラップフィルム（PVDC、PO）、バリアフィルム、ラベル用シュリンクフィルム、イーザーピールフィルム、方向性フィルム、その他軟包装フィルム
物流・重包装	段ボール、プラスチック段ボール、バッグ・イン・ボックス、フレキシブルコンテナ、プラスチックコンテナ、プラスチックパレット、シートパレット、PE 重袋、クラフト重袋、鋼製ドラム缶、ステンレスドラム缶、ケミカルドラム、プラスチックドラム缶
その他関連資材	包装用不織布、粘着テープ、気泡緩衝材、発泡スチロール梱包材、発泡ポリエチレンクッション材、バラ状緩衝材、パルプモールド、粘着ラベル、PET ボトル用キャップ材、プラスチックチャックテープ

< 調査方法 >

富士キメラ総研専門調査員による参入企業・関連団体などへのインタビューを基本とし、社内保有データ、並びに外部関連情報などを補足活用した。

< 調査期間 >

2005年4月～2005年6月

以上

資料タイトル：「2005 パッケージングマテリアルの現状と将来展望」
体 裁：A4判 361頁
価 格：97,000円（税込み101,850円）
調査・編集：富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門 TEL:03-3664-5841（代）FAX:03-3661-7696
発 行 所：株式会社 富士キメラ総研 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2 - 5 F・Kビル TEL03-3664-5841（代）FAX 03-3661-7696 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp